

1. 令和5年度農林水産省いも類関係概算要求の概要

（1）持続的畑作生産体系確立事業 【令和5年度予算概算要求額 3,153（一）百万円】

<対策のポイント>

畑作産地において、病害虫の発生リスクの低減や需要のある作物への転換、労働力不足等の課題に対応するため、サツマイモ基腐病等の病害抑制と需要に応じた生産拡大の両立、種ばれいしょの供給力の強化、労働負担軽減、環境に配慮した生産体系の確立、新たな需要拡大等の取組を支援します。

<事業目標>

- かんしょの生産量の増加（86万t [令和12年度まで]
- ばれいしょの生産量の増加（239万t [令和12年度まで]

甘味資源作物生産支援対策 【令和5年度予算概算要求額 13,152（11,087）百万円】

（かんしょ）

サツマイモ基腐病の次期作への影響を最小限にしながらかんしょの持続的な生産を行うための取組やでん粉原料用かんしょの生産性向上及び省力化のための多収新品種への転換や農業機械の導入等を支援。

（詳細は、以下のページをご覧ください）

令和5年度農林水産予算概算要求の概要

<https://www.maff.go.jp/j/budget/r5yokyu.html>

2. ジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の普及に関する情報交換会の開催について

ジャガイモシストセンチュウは1972年に北海道で発生が確認され、様々な対策を講じたものの道内では発生面積が広がり、長崎、青森、三重、熊本県でも発生が認められています。

最も効果的な対策は抵抗性品種の作付ですが、令和元年度の普及率は北海道で3割強、都府県では1割強にとどまっています。

でん粉原料用品種は抵抗性品種に移行しているものの、青果用や加工用では抵抗性品種への転換が進んでいない状況にあることから、シロシストセンチュウも含めて抵抗性品種の普及に向けて、研究成果を説明するとともに現場での取り組み状況や今後の対応について情報交換を行います。

（情報交換会の案内は別紙）

3. 会員による事業及び催しもののお知らせ

（1）令和4年度ポテトチップス試食調査のお知らせ

令和4年度のポテトチップス試食調査は10月下旬から11月上旬にかけて行います。

本年、試食調査を行う品種はパールスターチ、ハロームーン、しんせい、シャイニールビー、ノーブルシャドーの5品種です。

（試食調査の内容は別紙）

（2）川越サツマイモまんが資料館のセミナー

10月～12月にかけて、川越市のまんが資料館で催されるセミナーのお知らせです。

詳しくは別紙をご覧ください。

ジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の普及に関する情報交換会の開催について

1. 趣 旨

ジャガイモシストセンチュウは 1972 年に北海道で発生が確認され、様々な対策を講じたものの道内では発生面積が広がり、長崎、青森、三重、熊本県でも発生が認められています。最も効果的な対策は抵抗性品種の作付ですが、令和元年度の普及率は北海道で3割強、都府県では1割強にとどまっています。でん粉原料用品種は抵抗性品種に移行しているものの、青果用や加工用では抵抗性品種への転換が進んでいない状況にあることから、シロシストセンチュウも含めて抵抗性品種の普及に向けて、研究成果を説明するとともに現場での取り組み状況や今後の対応について情報交換を行います。

2. 主催

日本いも類研究会
一般財団法人いも類振興会

3. 参集範囲

上記2の会員のほか、日本いも類研究会のHP（JRTWeb）でも周知し、原則として自由参加とします。

4. 開催時期等

【日 時】令和4年10月31日 13時30分～15時30分

【場 所】Zoomによるオンライン開催

【定 員】100名

【参加方法】参加は無料で所定のフォームによる事前に申し込み、事務局からメールでリンクを案内します。

5 当日の進行

【座長】日本いも類研究会会長（元福島県農業総合センター所長） 小巻 克己 氏

(1) 基調講演

「ジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の開発及び普及」 片山 健二 氏
北海道農業研究センター寒地畑作研究領域 領域長補佐
兼 畑作物育種グループ長

「ジャガイモシストセンチュウ類の感染拡大防止対策」 串田 篤彦 氏
北海道農業研究センター 技術適用研究チーム長

(2) 話題提供

「加工食品業におけるジャガイモシストセンチュウ類抵抗性品種の導入」 西田 毅 氏
ケンコーマヨネーズ株式会社 商品開発本部 野菜・サラダ研究所 部長

(3) 情報交換

※当日の概況については、日本いも類研究会のHPに掲載するとともに、個別の質問等については事務局で後日、回答します。

新品種等によるポテトチップ製品の試食について（令和４年度）

研究会事務局

日本いも類研究会では、昨年に引き続き副会長である菊水堂岩井さんのご協力を得て、ポテトチップ用新品種等によるポテトチップ製品の試食サンプル配布及びアンケート調査を行うことになりましたので、ぜひご参加下さい。

なお、配布にあたっては、下記事項を条件といたしましたので、ご協力をお願いいたします。

- 1 ポテトチップ製品の試食申込（アンケート調査参加）は、
ugg37793@nifty.com（岩井）にメールでお願いします。
- 2 申込メールには、次の項目を記入して下さい。（試食品を送付するため）
 - ・ 申込者氏名
 - ・ 申込者郵便番号・住所
 - ・ 申込者電話番号（申込期限）11月10日（木）（在庫がなくなり次第締め切ります。）
- 3 ご家族・知人等に呼びかけ、3名以上でご参加下さい。
（アンケート記入者が3名以上という意味です。）
- 4 送付するポテトチップは、以下の5種類（5品種）です。
 1. パールスターチ （でん粉原料用品種、ポテトチップス用としても使用）
 2. しんせい （ポテトチップス用品種）
 3. ハロームーン （ポテトチップス用品種）
 4. シャイニールビー （赤肉系新品種）
 5. ノーブルシャドー （紫肉系新品種）
- 5 送付数量は各品種2袋ずつです。3名以上の参加を想定していますが、多人数で参加される場合は菊水堂の方で数量を割り増しして送付しますので、人数をお書き下さい。
（上限があります。）
- 6 アンケート調査については、送付するエクセルファイルのアンケート用紙の「個人用」シートを利用して、回答して下さい。
- 7 申込者が結果を集計し、同ファイルの「グループまとめ用」シートに人数を入力して提出して下さい。
- 8 全体集計を行う関係上、アンケート結果の送付は必ずメールを使用し、ファイルで提出して下さい。
また、全体集計作業に支障が出るため、ファイルの様式は変えないで下さい。

（アンケート提出先）

メールアドレス：nakazawa-imoshin@globe.ocn.ne.jp（中澤）

提出期限11月24日（木）

★備考★

★様々なポテトチップを楽しむ中で、新品種に親しんでいただけたら幸いです。

★アンケート結果については、後日、JRTwebで公表します。

2022 年度川越地方サツマイモ振興事業

「川越いも文化学セミナー」開催案内

～川越地方の伝統あるサツマイモ文化を知ろう！～

川越地方は「サツマイモ商品文化世界一」の地域です。また、多くのおいもファンから「サツマイモ天国」とも呼ばれています。

2022 年秋も、川越地方のおいも文化を振興するために第 29 回おいもパワー・フェスの事業を行います。そのなかのひとつとして、サツマイモについてよりよく知っていただくために市民向け講座として「川越いも文化学セミナー」を特別に開催します。ぜひ、早めに申込みください。

(期日) 1 回：10 月 6 日 (木)、2 回：10 月 30 日 (日)、3 回：12 月 17 日 (土)

(会場) サツマイモまんが資料館 (川越市元町 1-15-5 紋蔵庵蔵の街店 2F)

※川越の蔵造り街並み通りの「札ノ辻」バス停近くにあります。

(主催) 川越サツマイモ商品振興会 (協力) 川越いも友の会

(対象) 一般市民 参加無料 (注) 大人向けですが、年齢は小学生以上でも参加可能です。しかし、子供の場合は必ず親子でご参加ください。

(定員) 各回 10 名定員 (A：午前の部 10：30～12：00 10 名)

(B：午後の部 13：30～15：00 10 名)

(申込) 希望する回の A か B を選んで、早めに、サツマイモまんが資料館の担当：山田英次あて (TEL 080-1342-2177) へお申し込みください。

先着順です。

(注意事項) 新型コロナウイルス感染予防対策を守ってご参加ください。

また都合により急遽変更する場合もございます。

(プログラム内容)

① 講義 1 10 月 6 日 (木) A 午前 / B 午後 ※芋せんべい試食あり

「川越いも菓子文化の魅力を語る」～東洋堂の芋せんべい工場見学～

講師：山田英次氏 (サツマイモまんが資料館館長) ※東洋堂まで歩きます。

② 講義 2 10 月 30 日 (日) A 午前 / B 午後 ※大学芋試食あり

「大学芋文化の伝統とその魅力を語る」

講師：奥野靖子氏 (大学芋愛協会会長・さつまいもアンバサダー協会理事)

③ 講義 3 12 月 17 日 (土) A 午前 / B 午後 ※焼き芋試食あり

「焼き芋文化の伝統とその魅力を語る」

講師：橋本亜友樹氏 (さつまいもアンバサダー協会代表理事)